

表3-1 各レベルに対応した教育内容一覧

		レベル新人	レベルI	レベルII	レベルIII	レベルIV		
到達目標		1. 指示・手順・ガイドに従い、安全確実に助産ケアができる 2. 指示・手順・ガイドに従い、ウイメンズヘルスケアができる	1. 健康生活支援の援助のための知識・技術・態度を身につけ、安全確実に助産ケアができる 2. 院内助産・助産師外来について、その業務内容を理解できる 3. ハイリスク事例についての病態と対処が理解できる 4. 支援を受けながら、基礎的な知識・技術・態度を身につけ、ウイメンズヘルスケアができる	1. 助産過程を踏まえ個別的なケアができる 2. 支援を受けながら、助産師外来においてケアができる 3. 先輩助産師とともに、院内助産においてケアができる 4. ローリスク/ハイリスクの判別および初期介入ができる 5. 特徴的な事例について、ウイメンズヘルスケアができる	1. 入院期間を通して、責任をもって妊産婦・新生児の助産ケアができる 2. 助産師外来において、個別性を考慮し、自律したケアができる 3. 助産師外来において、指導的な役割ができる 4. 院内助産において、自律してケアができる 5. ハイリスクへの移行を早期に見出し対処できる 6. ウイメンズヘルスケアを自律して実践できる	1. 創造的な助産ケアができる 2. 助産師外来において、指導的な役割ができる 3. 院内助産において、指導的な役割ができる 4. ローリスク/ハイリスク事例において、スタッフに対して教育的なかわりができる 5. ウイメンズヘルスケアにおいて、スタッフに対して教育的なかわりができる		
倫理的感応力	ケアリングの姿勢	●ケアリングとは(主要な理論の理解)		●助産実践とケアリング(理論の実践への適用)	●自己の振り返り(OJT) ●ケアを提供した事例を具体的に思い浮かべながら助産師としての自らの姿勢を自己評価する ●複数で共有し意見交換する			
	助産実践能力(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の診断とケア/分娩期の配慮の視点)	<p>〈マタニティケア能力〉(助産実践能力)の評価については、レベル新人は「新卒助産師研修ガイド」(日本看護協会のチェックリスト(表4-4))、レベルI~IIIは「医療機関における助産ケアの質評価:第2版」(日本看護協会)のチェックリスト(表4-3)に基づいて自己点検し、所属長がその内容を確認する</p> <p>〔知識編〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ローリスクからハイリスクまでの妊娠・分娩・産褥期にある女性の心理 ●正常な妊娠・分娩・産褥期の経過とケア ●ハイリスク妊娠・分娩・産褥:主要な疾患に関する病態とケア(切迫流産、妊娠高血圧症候群(HDP)、前置胎盤、多胎、妊娠糖尿病(GDM)、胎児発育不全(FGR)) ●新生児の解剖生理学的特徴とそれに基づくケア ●ハイリスク新生児の特徴とケア ●ハイリスク新生児の家族へのケア ●助産記録:記録の原則・家族参加型記録の意義と方法等 ●胎児心拍数陣痛図(CTG)の判読(基礎・応用) ●検査データの見方 ●臨床薬理(子宮収縮薬含む) ●母乳育児に関して <p>〔実践編〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新生児蘇生法(NCPR:Bコース以上):定期的に講習会開催 ●母体救急 ●フィジカルアセスメント(妊娠期・脳神経・呼吸/循環・代謝・新生児) ●静脈注射 ●仰臥位以外の分娩/帝王切開分娩 			●院内助産対象者の選定の基準(「院内助産・助産師外来ガイドライン2018」参照) ●分娩入院時、院内助産対象基準からの逸脱の判断 ●アセスメント・計画立案に対しての指導			
マタニティケア能力	到達の条件	<p>分娩介助 → 分娩介助100例以上</p> <p>新生児の健康診査 → 新生児の健康診査100例以上</p> <p>妊娠期の健康診査 → 妊娠期の健康診査200例以上</p> <p>産褥期の健康診査 → 産褥期の健康診査200例以上</p> <p>プライマリー(妊娠・分娩・産褥期)ケース → プライマリー(妊娠・分娩・産褥期)ケース20例以上</p> <p>集団指導(小集団指導含む) → 実践できる・指導できる</p> <p>母親学級・両親学級 → 実践できる・指導できる</p> <p>緊急時の対応(BLS、多量出血等) → 実践できる・指導できる</p> <p>【必須研修】新生児蘇生法(NCPR:Bコース以上) → 修了</p> <p>分娩期の胎児心拍数陣痛図(CTG) → 修了</p> <p>フィジカルアセスメント(脳神経・呼吸/循環・新生児)、妊娠と糖尿病 → 修了</p> <p>臨床薬理(妊娠と薬)、臨床推論 → 修了</p> <p>臨床病態生理、授乳支援 → 修了</p> <p>妊娠期の栄養、メンタルヘルス → 修了</p> <p>母体の感染、緊急時の対応 → 等 修了</p>						
	教育	教育・指導	●助産師の継続教育・卒後教育	●教育と指導(患者指導および小集団教育)	●教育と指導(職員教育)	●教育と指導(教育評価)	●教育と指導(ケーススタディ)	
		自己開発	●キャリアパス/クリニカルラダー	キャリアカウンセリング				
		研究	●院内外の学会や研究会の情報 ●自部署における研究活動の情報	●臨床で研究を行うことの意義 ●看護研究の方法(基礎:文献検索、[実施含む]と文献の活用、データの収集と分析方法等)	●看護研究の方法(実践) ●研究計画書作成方法 ●学会参加	●研究計画書作成 ●プレゼンテーション ●学会発表		
		コミュニケーション(対人関係)	●分娩介助から入院中、産後1か月健診までの受け持ち事例の検討やOJT ●緊急時のコミュニケーション	●妊娠から産後1か月までの継続受け持ち事例の検討やOJT	●妊娠初期・中期から産後1か月健診までの継続受け持ち制 ●緊急時のコミュニケーションにおける中心的役割 ●関連部署/関連職種連携	●妊娠初期・中期から産後1か月健診までの継続受け持ち事例をもとにした事例検討やOJT ●緊急時のコミュニケーションにおける指導的役割 ●事例検討の指導 ●多職種・多機関連携		
	専門的自律能力	倫理	社会性	●接遇(身だしなみ) ●職務規定	●接遇(OJT)			
			助産倫理	●ICM-助産師の倫理綱領 ●日本看護協会-看護者の倫理綱領	●倫理原則	●生命倫理	●倫理的意思決定(対象) ●ケーススタディ	
			安全	●助産師に関連する法律・制度・施策 ●産科医療補償制度 ●看護職賠償責任保険 ●各種ガイドラインの活用 ●リスクマネジメントの基本 ●感染の基礎知識(母子感染含む) ●災害対策の基礎知識 ●情報管理(施設内の情報管理規定、医療情報の取り扱い、対象への情報提供等)	●感染防止の基本行動 ●災害対策(OJT) ●薬剤管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤管理)含む	●インシデント・アクシデント分析方法 ●感染対策(OJT)	●インシデント・アクシデント分析(事例) ●災害対策(災害・防災訓練の企画・実施・評価)	
			経済性	●業務管理・時間管理	●物品管理・コスト管理	●周産期にかかわる医療制度	●日本の保健医療制度と診療報酬制度	●助産と経済性
			リーダーシップ	●所属する組織とその役割 ●医療提供体制 ●メンバーシップ(OJT) ●目標による管理 ●チーム医療における助産師の役割や連携・協働のあり方	●メンバーシップ(OJT)	●リーダーシップ ●問題解決技法	●助産管理の基本 ●看護単位におけるリーダーシップ ●助産ケアの質管理/助産業務管理	●データに基づいた質評価 ●医療チームにおけるリーダーシップ

助産実践のために必要な知識と技術

マタニティケア能力

専門的自律能力

管理(マネジメント)

	レベル新人	レベルI	レベルII	レベルIII	レベルIV
到達目標	1. 指示・手順・ガイドに従い、安全確実に助産ケアができる 2. 指示・手順・ガイドに従い、ウィメンズヘルスケアができる	1. 健康生活支援の援助のための知識・技術・態度を身につけ、安全確実に助産ケアができる 2. 院内助産・助産師外来について、その業務内容を理解できる 3. ハイリスク事例についての病態と対処が理解できる 4. 支援を受けながら、基礎的な知識・技術・態度を身につけ、ウィメンズヘルスケアができる	1. 助産過程を踏まえ個別的なケアができる 2. 支援を受けながら、助産師外来においてケアができる 3. 先輩助産師とともに、院内助産においてケアができる 4. ローリスク／ハイリスクの判別および初期介入ができる 5. 特徴的な事例について、ウィメンズヘルスケアができる	1. 入院期間を通して、責任をもって妊産婦・新生児の助産ケアができる 2. 助産師外来において、個別性を考慮し、自律したケアができる 3. 助産師外来において、指導的な役割ができる 4. 院内助産において、自律してケアができる 5. ハイリスクへの移行を早期に発見し対処できる 6. ウィメンズヘルスケアを自律して実践できる	1. 創造的な助産ケアができる 2. 助産師外来において、指導的な役割ができる 3. 院内助産において、指導的な役割ができる 4. ローリスク／ハイリスク事例において、スタッフに対して教育的なかかわりができる 5. ウィメンズヘルスケアにおいて、スタッフに対して教育的なかかわりができる

助産実践のために必要な知識と技術	ウィメンズヘルスケア能力	女性のライフサイクルの観点からの対象理解	<p>〈知識編〉</p> <p>〈思春期〉 ●身体的特徴、思春期を取り巻く社会的機能と問題</p> <p>〈成熟期〉 ●身体的特徴、成熟期を取り巻く社会的機能状況と問題、女性特有の疾患 婦人科疾患とそれに伴う社会資源の活用 社会資源、法律と制度</p> <p>〈更年期〉 ●身体的特徴、更年期女性を取り巻く社会的機能と問題</p> <p>〈老年期〉 ●身体的特徴、老年期を取り巻く社会的機能状況と問題</p> <p>●ジェンダーと女性の生活基盤、生活リズムの変化</p> <p>●自己の健康自覚、健康管理、健康増進(ヘルスプロモーション)</p> <p>●男女相互の生理、人権尊重、パートナーシップ、性感染症の予防、DVの予防</p> <p>●生命の成り立ち、妊娠のメカニズム、出産、育児、生命倫理</p> <p>〈実践編〉</p> <p>●院内外の講義受講、事例検討</p> <p>●「ウィメンズヘルスケア能力に必要な専門的自律能力」の強化(表2-5参照)</p>	
		リプロダクティブヘルス／ライツに基づく支援	<p>〈ウィメンズヘルスケア能力〉の評価については、各施設の実践に即して計画し、所属長がその内容を確認する</p> <p>〈知識編〉</p> <p>〈産前・産後のメンタルヘルスケア〉</p> <p>●周産期のホルモン動態や家族役割・社会的機能の変化等に伴うメンタルヘルスの生理、病態、症状、治療、予後等</p> <p>妊娠、出産、育児期におけるメンタルヘルスの不調による弊害</p> <p>早期発見、予防方法とツールの理解と活用、社会資源の活用</p> <p>〈妊娠期からの子育て支援による胎児を含む子どもの虐待予防の支援〉</p> <p>●子ども(胎児含む)の虐待のタイプ(身体的、性的、ネグレクト)</p> <p>リスク要因、虐待による影響、虐待疑い・発見時の対応</p> <p>社会資源の活用、法律と制度、動向、相談の支援</p> <p>地域の母子保健事業や協議会</p> <p>〈妊娠から子育て期において支援を必要とする母親とその家族の支援〉</p> <p>●身体的社会的機能、家庭や生活基盤、リスク要因、早期発見、予防・支援方法</p> <p>育児状況の動向、相談と支援に関する技術、社会資源の活用</p> <p>〈不妊、不育の悩みをもつ女性の支援(出生前診断を含む)〉</p> <p>●生殖系系の形態・機能、病態、検査・診断・治療等、生殖医療の動向、リスクマネジメント、倫理、法律、ケアの裏づけとなる関連概念・理論、不妊・不育に関連する社会資源の活用、法律と制度、里親、養子縁組制度</p> <p>〈家族計画の支援〉</p> <p>●家族計画、受胎調節実施指導員、健康的な家庭・生活運営に必要な基盤、親となる準備、家族計画に関連する問題、避妊法、人工妊娠中絶、教育の現状、社会資源の活用、法律と制度</p> <p>〈性感染症予防の支援〉</p> <p>●性感染症の病態、症状、検査・診断・治療、予後、性感染症の動向、身体的・心理的・社会的影響、妊娠・出産への影響、感染経路、性感染症の予防、社会資源の活用、制度</p> <p>〈月経異常や月経障害等を有する女性の支援(更年期の女性へのケアを含む)〉</p> <p>●生理、病態、症状、検査・診断・治療、予後、身体的・心理的・社会的影響、症状改善に向けた日常生活面からの支援</p> <p>〈女性に対する暴力予防の支援(モラルハラスメント、DV、セクシャルハラスメント、性的虐待を含む)〉</p> <p>●暴力のリスク要因と暴力が起こる病理、早期発見、発見時の対応、予防、身体的・社会的影響、相談と支援に関する技術、社会資源の活用、法律と制度</p> <p>〈予期せぬ妊娠をした女性の支援〉</p> <p>●予期せぬ妊娠、女性とパートナーへの身体的・社会的影響、社会現象、意思決定、支援に関する技術、社会資源の活用、法律と制度</p> <p>〈多様な性の支援〉</p> <p>●基本的知識、身体的・社会機能的影響、社会的動向、支援に関する技術、社会資源の活用</p> <p>〈女性のメンタルヘルスケア〉</p> <p>●ライフサイクルに伴う身体、精神、社会的動態とメンタルヘルスへの影響</p> <p>●メンタルヘルスの不調の徴候、発症のメカニズム、症状、予後等の理解</p> <p>●早期発見、予防方法とツールの理解と活用、法律と社会資源の活用</p> <p>〈実践編〉</p> <p>●院内外の講義受講、事例検討</p> <p>●研修や学会、地域連携会議等の参加</p> <p>●「ウィメンズヘルスケア能力に必要な専門的自律能力」の強化(表2-5参照)</p>	